

平成28年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
(発達障害早期支援研究事業)
成果報告書(概要版)

実施機関名(千葉県君津市教育委員会)

1. テーマ

発達障害の可能性のある児童生徒の抱える困難さを改善する指導法の工夫

2. 問題意識・提案背景

本市では、全小・中学校を対象に、千葉県立君津特別支援学校の地域支援担当者と教育センター職員で構成する「特別支援チーム」による巡回訪問を実施し、個別の教育支援計画を活用しながら、支援の改善と充実を図っている。訪問の際に、読み・書きに困難さのある児童生徒への支援に苦慮していることが、どの学校でも協議会で話題になった。また、通常の学級に在籍するコミュニケーション面で困難さのある児童生徒への周囲の理解が不十分な為、トラブルに繋がる場合があり、自己肯定感を支えることが難しい、という課題を多くの学校で抱えていることがわかった。これらのことから、本市の特別支援教育をさらに推進するためには、特に通常の学級担任を対象に、支援を必要とする児童生徒の抱える困難さへの理解を深め、指導の改善を図ることが必要だと考えた。

3. 目的・目標

(1) 目的

学習面や行動面で困難さを抱える児童生徒への理解を深め、不適応を防ぐための指導法の改善について研究事業を行う。

(2) 目標

発達障害支援アドバイザーを派遣し、特別支援学校のセンター的機能を活用しながら、指導法の工夫・改善を図り、効果のあった実践をまとめ、学校配付用の資料を作成する。

ア. 「読み・書き」に困難さのある児童生徒への支援を糸口とし、全ての児童生徒が理解しやすいよう配慮した授業や教材・教具を工夫し、指導方法を改善することにより、学力の向上を図る。

イ. 通常の学級においてソーシャルスキルを学ぶことを通し、コミュニケーションに困難さのある児童生徒への理解を深め、心の教育の充実を図る。

4. 主な成果

- (1) 早期支援研究事業運営委員会を開催し(年3回)、取組の進捗状況報告、資料の評価・検討を行った。
- (2) 発達障害支援アドバイザーを配置し、主に指定校で研究を進めた。
- (3) 研修の場の提供により、教員のスキルアップを目指した。

- (4) タブレット型端末の導入により、成果と課題が明確になった。台数に限りがあるため、個別の取り出し学習には効果的だが、一斉授業での取扱いが難しかった。
- (5) 関連機関との連携により、保護者・教師支援の機会が増えた。
- (6) 担任だけでなくチームで支援するためのチェックシートを作成した。

5. 指定校における取組概要

①学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化

平成27年度・28年度と、2名のアドバイザーが2校でそれぞれ教室を訪問し、困難さの見られる児童を記録した。それを持って校内会議を開き、全職員共通理解のもと、対象児童・対象学級を明確にした。

また、市内全小・中学校28校が、本テーマについて実践を行った。各小・中学校では、特別支援教育コーディネーターを中心に対象児童生徒について検討し、明確にした。

②学習面（「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」）で困難を示す児童生徒に対する指導方法の改善・工夫

学力の向上を目指す小学校では、「読み・書き」に困難さのある児童に対する支援として「漢字の足し算プリント」を考案し、授業で使用した。プリントの活用は授業だけでなく、家庭学習での自主的な学習にも使われ、最終的には、プリントがなくとも、その理論で漢字学習を進める児童が出てきた。そのようなことから、その子に合った教材・教具の選択の必要性という課題はあるが、困難さのある子にとっても、そうでない子にとってもおおむね有効な支援であることが分かった。

③行動面（「不注意」「多動性－衝動性」）で困難を示す児童生徒に対する指導方法の改善・工夫

心の教育の充実を目指す小学校では、千葉県教育委員会が作成した「豊かな人間関係づくりプログラム（ピア・サポート）」を、個人ではなく学級単位のソーシャルスキルトレーニング（以下SST：対人関係や集団行動を営んでいくための技能を培う練習）として活用した。学級担任が実施することの効果や、テーマが学級の実態に合わない場合に話し合いの深まりが得られないという課題はあるが、アンケートや観察、聞き取りの結果から、ピア・サポートがSSTとして有効であることが分かった。

6. 今後の課題と対応

(1) 実践報告書の活用と教職員の力量向上（全小・中学校）

発達障害支援アドバイザーが作成した漢字学習プリントは、市のネットワークシステムで公開し、全教師が自由に引き出して活用できるようにした。

各校が提出した報告書は、実践事例集としてまとめ、各校に配付した。

(2) 校内支援体制の充実

児童生徒のニーズが様々であるため、今後も校内支援体制を整えていくことは継続した課題である。「校内体制確認シート」を活用し、校内委員会の開催状況を把握して、必要であれば助言をしていきたい。

(4) タブレット型端末の活用

タブレット型端末の貸与台数に限りがあるため、使用した学校からは、一斉指導の際の難しさが課題として多く出ていた。今後、早期支援研究事業運営委員会からその役割が移行する特別支援教育推進委員会において効果的な活用の仕方についてさらに検討したい。

(5) 幼児期からの継続した支援

幼児期からの継続した支援、各関係部署との情報共有が本市の課題であったが、平成29年度から、課を越えた連携会議の開催と、私立幼稚園と小学校をつなぐ「君津市特別支援アドバイザー」の雇用を予定している。活用を図りたい。

7. 指定校について

(1) 君津市立外^{そとみのわ}箕輪小学校、北見文雄校長

指定校名：君津市立外箕輪小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	34	1	31	1	27	1	28	1	33	1	28	1
特別支援学級			2		1				1			
通級による指導 (対象者数)	1				2		1					
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援 教育支 援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	10	1			1	1			3	18

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害、自閉症・情緒障害

※通級による指導の対象としている障害種：言語障害、弱視

(2) 君津市立北^{きたこやす}子安小学校、鈴木克之校長

研究推進校名：君津市立北子安小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	31	1	35	1	39	2	34	1	45	2	37	1
特別支援学級			1		1				2		2	
通級による指導 (対象者数)	2		2									
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援 教育支 援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	13	1	1		1	2			5	25

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害、自閉症・情緒障害

※通級による指導の対象としている障害種：言語障害

8. 問い合わせ先

組織名：千葉県君津市教育委員会

- (1) 担当部署 千葉県君津市教育委員会 教育センター
- (2) 所在地 千葉県君津市久保2丁目13番1号
- (3) 電話番号 0439-56-1618
- (4) FAX 番号 0439-56-1648
- (5) メールアドレス Kimi-edc@kimitsu.ed.jp